令和5年度卒業式
式辞　人口爆縮社会を切り拓く京女Spirits

春のあたたかな日差しが降り注ぐこの佳き日に、大谷範子名誉学長様、芝原玄記理事長・学園長様のご臨席を賜り、2023年度卒業証書・学位記授与式を、4年ぶりに制限を撤廃して挙行できますことは、私たちすべての教職員にとって大きな喜びでございます。

京都女子大学大学院博士前期課程、修士課程を修了された皆さん、そして発達教育学部・家政学部・法学部・文学部・現代社会学部を卒業された皆さん、おめでとうございます。これまで皆さんが積み上げてこられたご努力とご研鑽に対して、心よりの敬意を表します。

ご臨席のご家族の皆さまにも、お嬢様が卒業・修了をお迎えになられましたことに心よりお祝いを申し上げます。お嬢様の成長を見守ってこられた、これまでの長年のご労苦に対して心よりの敬意を表させていただきます。また、育友会などを通しまして大学に賜りました様々なご支援についても、大学を代表いたしまして厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、ご卒業にあたり 4 年前を振り返ってみますと、入学式の中止、緊急事態宣言の発令、それに伴うキャンパス入校禁止、さらに皆さんだけでなく教員・職員も未経験のオンライン授業など、まさに新型コロナウィルス感染症に翻弄された大学生活のスタートだったと思います。授業だけでなく、クラブ活動も大学祭も全てが感染防止の厳しい制限の中での生活でした。アルバイトもままならず経済的に厳しい状況に直面した方もおられたと推測いたします。

大学も皆さんを支援すべく、精いっぱいの努力を尽くしてきましたが、それにも勝る学生の皆さんの困難を乗り越え、制限の中でも出来ることを見出し、前に進んでこられた力とその知恵に心より敬意を表します。学生の皆さんに助けられて、京都女子大学は人類史上最大のパンデミックを大過なく乗り越えることができました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

残念ながら思い描いた楽しい学生生活とは一変してしまったかもしれません。しかし皆さんは4年間の学生生活で、困難を乗り越える力を確実に培われました。どうか自信をもって明日からご自身で選択したそれぞれの道に足を踏み出してください。進まれる道は様々でしょう。大学院への進学、留学などさらに学びを続ける方もおられると思います。またしばらく自分の道を探したいと考えておられる方もおられるかもしれません。しかし、大部分の皆さんは就職という道を選ばれています。

ところで、皆さんは「就職する意味」といいますか、「なぜ働くのか」考えられたことがあるでしょうか。

「人はなんのために働くのか」あるいは「なぜ働かなければならないのか」といういわゆる労働観は、歴史によってまた社会によって変化しています。その詳細を論じる場ではありませんので、今ここでは現代の日本社会に生きる市民にとっての労働観を考えてみたいと思います。

経済学者として資本主義社会における疎外論を論じたカール・マルクスは、人間は社会的存在であり、本来、労働は人間にとって本質的な営みであり、人間の生命的活動の自己実現であると論じました（K．マルクス、1972 年杉原・重田訳『経済学ノート』117－118 頁）。

労働は次の 4 つの喜びを人間にもたらす活動であるはずだ、と論じたのです。

すなわち、

第 1 は自己実現の喜びです。生産活動を通して、自己の個性とその独自性を発揮し、生命発現の喜びを味わうことができる。

第 2 に、他者の欲求にこたえる喜び：労働を通じて、他人の欲求を満足させたと意識する喜び。

第 3 には、他人の自己実現に、自分が不可欠であると意識する喜びであり、自身の労働が他人の自己実現に貢献できる喜び

そして最後に、自己が共同的な存在であることを確証し、実現したと意識する喜び。

以上の 4 点を挙げています。

乳幼児をもったリカレント受講生が、リカレント課程の修了後仕事に就きたいと夫に話すと、「なぜそんなに働きたいのか」「僕が残業して収入を増やすから働かなくてもいいじゃないか」と言われ、説得に苦労した、という話を時々耳にします。

夫にとって労働は生活の糧を得る手段として捉えられているのでしょう。しかし彼女にとっては収入を得る手段以上の意味があることが、このマルクスの労働観に立つとと理解できると思います。

さらに労働には社会的役割としての側面があります。憲法 27 条には、「すべての国民は、勤労の権利を有し、義務を負ふ」と労働の権利と義務が規定されています。国民の労働が国の経済的基盤を支えているのです。

日本は、これから人口減少が急速に進行する「人口爆縮時代」に突入します。15 年後の 2040 年には、労働力人口が 1,000 万人以上減少すると推計されています。この状況を打開する最善の解決策が女性のエンパワーメントです。女性の労働力率が男性と同じになれば、減少幅を 3 分の 1 以下の 300 万人にまで抑えることが可能です。

しかも男性の総給与と女性の総給与には 81 兆円もの格差があります。1,000 万人の労働力人口の減少は、国内総生産すなわち国が清算する価値の合計額 GDP の低下を招きます。他の条件が同じとするならその減少幅は 57.8 兆円と推計されていますが、男性と女性の間の給与格差が是正されればその減少を補って余りあります。すなわち、人口減少によってもたらされる日本が避けて通ることのできない最大の社会課題の解決策は、男性と女性の格差の解消にあるのです。

ご存じのように、本学の前身である京都女子高等専門学校は、甲斐和里子、大谷籌子、九條武子の3人の女性の尽力によって、104年前の1920年に設立されました。

女性のための高等教育機関の設立に情熱を燃やした大谷籌子氏は、このスライドにあるように、常日頃「仏陀は・・・(女性を）男女平等機会均等に扱はれたことは否定し得ない事実である。男性は婦人を或いは人形視し或いは奴隷視してすべての自由を束縛して来たがこれは時代を解しない人達の誤った考へからである。然しかやうな誤った婦人観の生れるのも一面婦人自身に欠点のあることは引込主義で男性の横暴を甘受してゐることにも起因する」と折に触れて語っておられたと記録されています。

大谷籌子氏は、仏教の平等思想に根差した「男女平等機会均等」の実現を阻む原因の一つに女性自身に問題があるとの考えから、「男女平等機会均等」な社会の実現には女性の高等教育が重要、と考え「女子大学設立」を発願されました。

明治民法が施行された直後の明治末、日本では女性は参政権はもとより法的に無能力の状態に置かれていた時代にあって、まだ20代半ばの若さで、「男女平等」を語り、そして日本各地を行脚して全国に仏教婦人会を組織するなど、その考え方の先進性と行動力には感銘を禁じえません。

大谷籌子氏が組織した仏教婦人会30万人の会員たちも大学設立に向けて募金活動を展開しました。残念ながら文部省によって女子大学設立は認可されませんでしたが、大学に代わって設置された、本学の前身である京都女子高等専門学校は、仏教系としては初めての、そして女性が発起し女性たちが資金活動の一翼を担って設立された、数少ない女性のための高等教育機関です。

2020年、本学はこの京都女子高等専門学校設立から100年を期して、第2期グランドビジョンを制定しました。その第1項目に、「ジェンダー平等の実現に貢献する女性の育成」を掲げています。その背景には、大谷籌子氏たちが大学設立を発願してから100年以上経っても、なお男女平等にほど遠い日本の現実があるからです。

ご承知のように、男女の格差の開きを示すジェンダー・ギャップ指数が、日本は世界143ヶ国中125位です。これは先進諸国はもとよりアジア・太平洋州の中でも最下位です。経済領域と政治領域のジェンダー格差の大きさが日本の順位を下げる原因となっています。

大谷籌子氏の「男女平等機会均等」の理念は、当時としては革新的でした。しかし、「機会の平等」は真の平等を実現しません。必要なのは「積極的格差是正」のためのアクション、すなわちアファーマティブアクションです。

男性と女性の間に能力の差はありませんが、そのジェンダー意識に大きな格差が存在します。「女性らしさ」というジェンダー意識が女性の能力の発揮を妨げ、担う役割を制約しています。

女子大学教育の特徴は、この意識の格差を是正する教育にあります。皆さんは、京都女子大学というジェンダー規範から相対的に自由な環境の中で、人格形成の一時期を、のびのびと、自分らしく行動することの心地よさを経験してこられました。大学では、「男子学生」「女子学生」ではなく、すべて「クラスメート」であり対等の仲間と意識してこられたでしょう。しかし就職されると、「男性社員」「女性社員」と性別に基づいて捉える世界があることに気づかれるとかもしれません。しかし、京都女子大学で学び、経験されたジェンダー規範から自由な意識を忘れないでください。そして日本社会の最大の課題解決の担い手は、あなた自身であることを胸に刻んでいただきたいと思います。

京都女子大学の教育成果を存分に発揮し、そして大谷籌子のチャレンジする精神、「京女 Spirits」を心に秘め、「女性だから」と自分の人生を諦めることなく、それぞれの道を邁進してください。

卒業生・修了生の皆さまの前途が洋々たるものであることを念じまして本日の式辞といたします。

本日はおめでとうございます。

2024 年 3 月 15 日

京都女子大学　学長　竹安　栄子